

台湾原住民族の実態とその調査活動を伝える貴重な資料！

大正2年1月〜5月 生蕃研究会発行

# 蕃界

1913年、日本の台湾総督府は「蕃地」の実効支配を進めるべく、森丑之助や佐倉孫三ら文化人類学者が参画する研究誌『蕃界』を刊行した。台湾原住民族の実態とその調査活動を伝える貴重な資料である本書を、仏教僧侶の教化活動にまつわる関係記事を加え、復刻する。



第1巻第1号



パイワン族の女性



復刻版 全2巻

●解題 中西直樹

●体裁 A5判・上製・総約755頁

●定価 本体50,000円＋税

2025年  
10月刊行

三人社





佐久間將軍像

生蕃研究會趣意書

臺灣版圖ニ入りシヨリ茲ニ十有八年聲教治ク敷キ庶績具ニ舉リ蒸々ノ化  
 鬱然見ルヘシ然レトモ榛々狃々ノ蕃族十有二萬深山幽谷ノ間ニ充斥シ未  
 タ皇澤ニ霑ハス動モスレハ官命ニ抗スル者蓋シ一半ニ居ル而シテ其盤踞  
 スル所ノ地ハ多ク險阻峻嶒ニシテ瘴癘鎖シ焉荆棘塞ル焉之ヲ誨ヘテ文明  
 ニ導キ之ヲ拓テ利澤ヲ興シ以テ島政ヲシテ有終ノ美ヲ濟サシムルハ我在  
 臺官民ノ共ニ任スヘキ所ニシテ其責務重且大ナラスヤ是ヲ以テ吾人ハ生  
 蕃研究會ヲ創設シ同志相謀リ同好相助ケ風ヲ采リ俗ヲ訪ヒ攷覈研鑽シ其  
 得ル所ヲ以テ之ヲ世ニ公ニシ當道ノ治術ニ資シ局外ノ見聞ニ益セントス  
 我臺灣總督府ノ意ヲ理蕃ニ注カル、コト幾年所彈壓綏撫漸ク成功アルモ  
 未タ力ヲ此ニ專ニスルニ至ラス蕃務本署設立セラル、ニ迫ヒ對蕃政策截  
 然劃一シ經費ヲ裕ニシ吏員ヲ増シ一面ハ益々隘勇線ヲ擴張シテ不虞ニ備  
 ヘ時ニ討伐隊ヲ編成シテ不逞ヲ懲シ一面ハ學堂ヲ建テ導クニ人倫ヲ以テ  
 シ或ハ農耕ヲ教ヘ或ハ工藝ヲ授ケ病者ハ之ヲ醫藥シ饑者ハ之ヲ賑卹シ凡



第二回台灣現住民族日本觀光團（明治四十四年八月）

台湾原住民族教化との関係記事集 掲載記事一覧

- 1 「八淵師の台湾談」(一九〇九〔明治四十二〕年十一月八日付『中外日報』)
- 2 「妙心寺派録事」(『正法輪』二六八号、同年十一月十二日)
- 3 「台湾布教師確定」(『正法輪』二七〇号、一九一〇〔明治四十三年〕年一月十二日)
- 4 「蕃界布教使募集広告」(『教海一瀾』六十七号、同年二月一日)
- 5 「蕃民教化の方法」(同年二月二十四日付『中外日報』)
- 6 「生蕃教化事業」(上)(下)(同年三月三・五日付『中外日報』)
- 7 「台湾開教談」紫雲贊事談(『教海一瀾』四六九号、同年四月一日)
- 8 「花岡蕃界布教使の報告」(『正法輪』二七三号、同年四月十二日)
- 9 「蕃地布教の近信」(同年五月十五日付『中外日報』)
- 10 「蕃社近信」南仔脚万社駐在 九條馨春(『教海一瀾』四七二号、同年六月一日)
- 11 「花岡蕃界布教使報告」(『正法輪』二七五号、同年六月十二日)
- 12 「台湾布教使」(『正法輪』二七五号、同年六月十二日)
- 13 「蕃界布教使出発」(『正法輪』二七六号、同年七月十二日)
- 14 「台湾蕃界に対する布教計画(其一)」山陽禪史(『正法輪』二七七号、同年八月十二日)
- 15 「蕃地便り」蕃界布教使圓山駐在 小袋黙天(同年八月二十四・二十六日付『中外日報』)
- 16 「蕃界布教使所在」(『正法輪』二七八号、同年九月十二日)
- 17 「台湾たより」山本白洲(『正法輪』二七八号・二八〇号、同年九月十二日、十一月十二日)
- 18 「台湾生蕃叢話」山陽禪史(『正法輪』二七八・二八〇号、同年九月十二日、十一月十二日)
- 19 「生蕃布教の方法」(同年十二月七日付『中外日報』)
- 20 「台湾布教方針」(『正法輪』二八二号、一九一一年〔明治四十四〕年二月十二日)
- 21 「布教使会議」(『正法輪』二八三号、同年二月十二日)
- 22 「台湾布教使派遣」(『正法輪』二八三号、同年二月十二日)
- 23 「蕃界布教師派遣」(同年二月十四日付『中外日報』)
- 24 「生蕃人の参詣」(同年三月二十五日付『中外日報』)
- 25 「台湾珍客の出発」(同年四月一日付『中外日報』)
- 26 「生蕃入京」(同年四月六日付『中外日報』)
- 27 「団参彙報・台湾団入京」(『教海一瀾』四八九号、同年五月一日)
- 28 「生蕃と語る」(中外日報社編集局編『遠忌大観』中外日報社、同年)
- 29 「生蕃の遠忌観」(同年五月二十二日付『中外日報』)
- 30 「蕃人来山」(『教海一瀾』四九七号、同年九月一日)
- 31 「討蕃戦死者追悼会」(『教海一瀾』四九七号、同年九月一日)
- 32 「台湾蕃界布教」山本白洲(『正法輪』二九〇号、同年九月十二日)
- 33 「珍客生蕃団の来山」(『正法輪』二九〇号、同年九月十二日)
- 34 「生蕃子弟の喜び」(『正法輪』二九一号、同年十月十二日)
- 35 「台湾生蕃団参拝」(『教海一瀾』五一五号、一九一二〔明治四十五年〕年六月一日)
- 36 「台湾蕃人の僧侶」(同年六月六日付『中外日報』)
- 37 「蕃人布教と討伐隊」(同年六月七日付『中外日報』)
- 38 「台湾生蕃登山」(『正法輪』二九九号、同年六月十二日)
- 39 「鯨蕃情報」在台湾布教師 福山東山(『正法輪』三〇〇号、同年七月十二日)
- 40 「大津蕃務総長の来山」(『教海一瀾』五三二号、一九一二〔大正元〕年九月十五日)
- 41 「生蕃の本願寺参拝」(同年十月九日付『中外日報』)
- 42 「台湾生蕃団参拝」(『教海一瀾』五三四号、同年十月十五日)
- 43 「生蕃觀光回登山」(『正法輪』三〇四号、同年十一月十二日)
- 44 「台湾の近状」丸井圭次郎(『新佛教』一三卷一、一、一九一一年十一月)
- 45 「台湾新竹李峰山前進隊視察報告」台湾総督府囑託布教師 福山東山(『正法輪』三〇五号、同年十二月十二日)
- 46 「蕃人特殊教化事務概報」台湾総督府囑託布教師 福山東山(『正法輪』三一〇・三一三・三一四号、一九一三年五月十二日・七月十二日・九月十二日)
- 47 「蕃界布教使解囑」(『正法輪』三一三号、一九一三年八月十二日)
- 48 「ブヌン蕃族慣習実査概報」岩野智良(『正法輪』三一五・三一九号、同年十月十二日・一九一四年二月十二日)
- 49 「治蕃布教師引揚事情」(一九一三年十二月二十一日付『中外日報』)
- 50 「台湾開教の一転機△土人教化の前途」(一九一五年〔大正四〕年七月二日付『中外日報』)
- 51 「台湾同化頓挫」(一九一六年〔大正五〕年二月十三日付『中外日報』)
- 52 「蕃地に身を投じて生蕃人に伝道 西本願寺開教使」(一九二一年〔大正十年〕十月二十五日付『中外日報』)

1 「八洲師の台湾談」(二九〇九〔明治四十二年〕十一月八日付『中外日報』)

△台湾の統治方針 邦人は日本が台湾を占領したのを彼の西洋人が或る殖民地を占領した如くに思ひ占領の本意を誤解して居る、夫故先づ第一番に総督府の台湾統治方針からが一定して居ない、土民三百万人ありと云へども是れは實際に到底帰化し能はざるものである、此土民を以て直ちに台湾を統治するならば早くとも今から三代目の子孫を持たねば台湾統治の健児と頼むことは出来ぬ、然れば今日は如何なる方針を以て島政を執つて居るかと云へば、云ふまでもなく内地よりの移住者十万人を以て台湾統治の中堅として居る様であるが、併し實地に臨んで見れば内地人を以て目的として居る統治方とも思はれぬ点が多い、台湾人は日本人と同一人種であるが、性行其他総べて同一でなければならぬ訳であるが、実際には大に異つて居る点がある、先づ語学に就いて見るに土人は英語は教へさへすればよく操つるが、日本語は英語の如く容易に記憶が出来ぬ、是れに反して生蕃人は英語は容易に覚へず談話杯は頗る困難であるが日本語は教へさへすれば頗る上手に話すのみならず其容貌が日本人に近い夫で出来得るならば土民を帰化せしむるよりか生蕃人を帰化せしむる方法を執るのが国家、社会の利益であつて又た宗教のためである。

△西班牙人の着眼 西班牙人が台湾に入込で土人布教に着手したのは今から三百年前のことにして今猶ほ倦まず布教して居るが、其信徒は全島中に僅か千人内外に過ぎざれど猶屈せず益々熱心に布教しつゝある忍耐力の強大なるには実に感服する外ない、殊に注目を要すべきものは帰化生蕃人を自派信者に引入るゝことが布教の大方針と成つて居ることなり他国の宗教家猶且つ斯の如くなるに本家大元の仏教徒が其処にも気も付かず、他教徒の蹂躪に任すと云ふことは実に残念なる次第である、政府が此生蕃討伐に投ずる金が年に三百円づゝの巨費であると聞くと出来得るならば此生蕃討伐費を全部でなくとも其幾分を宗教家に貰つて宗教家自ら宗教の力を以て生蕃帰化に尽力する事とせば兵力を以てするよりも簡易にして而も効果大ならんかと思はれる、たとい政府の援助を仰かざるとも生蕃帰化を僧侶の手に托すると云ふ事は研究の余地があらうと思はれる、兎に角に今日の布教の如く只内地人の仏事に参詣するだけが駐在布教使の仕事と成つてゐては台湾の仏教も絶望である。(編者補注—以下略)



第一回台湾現住民族日本観光団(明治四十四年四月)



紫雲玄蕃(本願寺台北別院輪番)

# ブヌン族の祭祀

森 丑之助

此種族の蕃人は殆ど毎月の如く祭事を行ひ、一定の儀式を以て祖先の靈を祭る、彼等は農事及狩獵等皆是れ祖先の恩徳に因て成るものと信じ、年中行事を月次に配し祭典を行ふなり、彼等の宗教は祖先崇拜にして、邀福避禍の事總て祖靈の冥護に因るものと爲し、其宗教的信仰殊に深し、此觀念は彼等の慣習及道徳的思想の上に大なる影響を及ぼし、現に彼等の有する特殊の品性は之に因て涵養され、其社會の秩序を保持するに與りて力あるものとす、

祭祀は連合して行はれ、一部族を以て一の祭祀團體を組織するを原則とするも、移住の爲め本社と遠隔せしものは一社又は一の同姓又は一家族を以てせるものあり、何れも一定の司祭者ありて祭事に關し絶對の權能を有す、一部族を以て一祭團を成す處の司祭者は、概ね其本社に在て一定の家系の出に限り世襲的尊榮を有せり、一蕃社又は同一姓團を以て一祭團を成す處は其頭目若は其長者之が司祭者となり、一家族にて成す處は概ね家長其任に膺るを例とす、蕃社に依り農事に關する司祭者は凶作なる場合には他と交任する處あり、又或る祭事に就き未婚の婦女を以て司祭者に充つる處あり、

祭祀の種類及儀式時期等は、部族に依り區々にして一定せざれども、此種族を通じて祭祀に對する根本の意義と、其精神は全く一致せるものあるを見るなり、祭事の種類及時期の標準となるべきも



ヤミ族



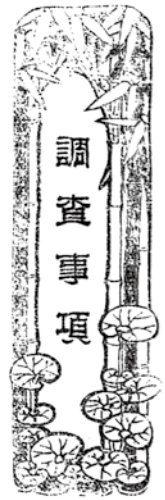
パイワン族の先祖の像



タイヤル族



ブヌン族



# 蕃地探險 其二

其二

南投花蓮港兩廳交通路踏査 (下)

野呂寧

## 三、地理

濁水溪は、中央山脈の合歡、蕃菜、能高、安東群諸山より發し、萬大社にて東北合歡、蕃菜より來れる主流と、東南能高、安東群より流るゝ支流萬大溪と相合して西南に走り、卓社大山の北を過ぎて、東南「カ」社溪を容れ「バクラス」の南にて丹大溪を合し、番大山の北を流れ、拔社埔を過ぎ、牛軋轆に至り、新高山方面より來る陳有蘭溪を併せ、集集を過ぎ、西して海に入る。

濁水溪の右岸は、合歡山の支脈にして、南投廳隘勇線の最東端、櫻ヶ峰より「タツタカノーハン」を經、霧社より埋石山に到り、水社山に達する一山脈にして、支溪の殊に記すべきなく、左岸は之に反し萬大「カ」社、丹大、陳有蘭等深溪の會流するもの多く従て支脈の來り迫るもの多く、就中、卓社大山(萬大溪「カ」社溪間「カ」社山「カ」社溪丹大溪間)及番大山(丹大溪、陳有蘭溪間)を最とす、

調査事項

一



ツオウ族の家族



ツオウ族



アミ族



パイワン族

# 蕃界 全2巻 復刻版概要

●体裁 A5判・上製・総約755頁

●定価 本体50,000円＋税 ISBN978-4-88691-800-6

●解題 中西直樹〈龍谷大学文学部教授〉

●附録 台湾原住民族教化の関係記事集(解説付)

●原誌提供 中西直樹

●刊行 2025年10月

## ●本書構成

- 第1巻 『蕃界』第1号 1913(大正2)年1月11日発行  
『蕃界』第2号 1913(大正2)年3月15日発行  
第2巻 『蕃界』第3号 1913(大正2)年5月15日発行  
解説①「雑誌『蕃界』について」・『蕃界』総目次  
台湾原住民族教化の関係記事集  
解説②「日本仏教の台湾原住民族教化」



布教師の蕃社巡回(明治四十三年五月)



マリコワン蕃ナロ社

## 関連図書

仏教植民地布教史  
資料集成(台湾編)全6巻  
収録資料37点

●編・解題 中西直樹  
●体裁 A5判・B5判・上製・総約3,082頁  
●揃定価 150,000円＋税  
●推薦 坂口満宏・柴田幹夫

龍谷叢書38 中西直樹 著

植民地台湾と日本仏教

●体裁 A5判・上製・358頁  
●定価 4,800円＋税

下岡友加 著

『台湾愛国婦人』と

いう文学場

〈帝国〉日本のプロパガンダと女性

●体裁 A5判・上製・400頁  
●定価 5,800円＋税 2025年2月刊

愛国婦人会台湾支部機関誌「1909年～1912年」  
台湾愛国婦人(明治編)

全38巻十別冊1【復刻版】

●解題 上田正行・河原功・下岡友加・田中勳儀・李文茹  
●総目次作成 佐藤未央子  
●体裁 菊判・並製・総約14,646頁  
●揃定価 240,000円＋税  
●推薦 洪郁如・呉佩珍

愛国婦人会台湾支部機関誌「1912年～1916年」  
台湾愛国婦人(大正編)

全45巻【復刻版】

●解題 上田正行・河原功・下岡友加・田中勳儀・李文茹  
●体裁 菊判・並製・総約18,934頁  
●揃定価 360,000円＋税  
●推薦 洪郁如・呉佩珍

●表示はすべて税別

## 三人社

〒606-8351  
京都市左京区岡崎徳成町29-3 岡崎ミントビル  
電話 075-762-0368 FAX 075-762-0369  
E-mail:office@3nin.jp https://3nin.jp/

ご注文は書店様または直接上記までお申し込みください。